

日本まるごと海底、湖底、海浜清掃

海をつくる会

はじめに

海底や湖底に沈んでしまったゴミ。このゴミは、陸上に生活する私たちは、目にすることはありません。しかしダイバー（スクーバダイビング）である私たちには、ダイビングの度に、まるで陸上と同じ状態でゴミが散乱しております。1980年代、ダイバー人口が急激に増加し、ひと夏のダイビング講習生が町中の1ショップだけでも50名を超える時代でした。この時感じたのが、ダイビング人口が増えるにつれ、海中のごみも比例して増えていったことです。私たちは、ファンダイビングをする前に、海底清掃を行い、ゴミを拾い上げてから海中散歩を楽しむことにいたしました。これが、海をつくる会を30年継続できた原点であり、これからも、変わらない思いであろうと感じております。30年間の活動はなんら変化はありません。ただ、毎週土日が忙しくなっただけです。しかし忙しくなればなるほど、私たちの周辺が綺麗になる。そんな気持ちの良い結果はないと感じ1日で3イベントという時もあり、かけ持ちも多々発生しております。

海をつくる会内部は、大きく分けると、生きもの系と清掃系に分けることができます。「水環境を良くするための活動」という基本的な考えに変わりは

ありませんが、生きものを大切に、豊かな海にしたい、という活動が生きもの系です。海草のアマモの移植を行い、定点観察で増えてくる生きものを毎月観察しつづけることの大切さを感じながら活動いたしております。

春アユの稚魚を見つけ、カレイの子供を見つけ、子供のように喜ぶ会員を見ていると、まるでサークルそのもの。40歳を過ぎた大人たちが喜ぶ姿は、彼らの活動の力をも感じさせます。そしてもう一つの清掃系。

これは正に、海底や湖底に沈んだ回収されないゴミを取りあげ、水環境改善を目的とした活動です。どちらも大変地味な活動ですが、どちらも私たち海をつくる会にとっては大切な活動です。

海底や湖底に沈むゴミは、冒頭に書きましたが、一般の陸上で生活する人には見えません。また見えなくなるからゴミを捨てる。という行為につながっています。旅館街の湖にゴミが多いのは、観光で来られた方々が、一杯入り、そのまま旅館から出て、ちょっと夕涼み。しかしその手には、ビール、酒を持ち、飲み終わると、目の前の湖に、気軽にポイ！。この行為だけで、1年に1,000本ちかいビール瓶や缶が沈みます。大変綺麗な芦ノ湖ですが、一旦清掃をすると、軽く1,000本以上のビール瓶が出てます。誰が捨てるんだろうと漁組さんと会話をいたしますが、やはり理由は軽い気持ちのポイ！でした。

水深5m～10m。さほど深くはありませんが、湖の場合10mを過ぎると、水温が5℃下がります。大変冷たい水の層となり、ダイバーとしても体温が奪われ、活動ができなくなり、危険な水深です。しかしそこには、大量の瓶や缶が。思わず手を出し、更に深く入ってしまいます。



またゴミを回収すると、軽い泥土が舞い上がり、瞬間に周辺の視界が奪われ、視界ゼロとなります。この視界ゼロの状況で、冷静に適格にゴミを回収しつつける海をつくる会のダイバーには、尊敬の念を忘れません。そしてゴミを回収した後の彼らのすがすがしい笑顔は大変素敵です。疲れ、ヘドロにまみれ、体からヘドロ臭を発しながらのあの笑顔は、是非皆様にご紹介したいです。



この30年、誰ひとりとして怪我無く過ごせたことも私たちダイバーとしての誇りでしょう。「無理せず、自分の技量を過心せず、安全潜水に心がけ、清掃をつづけてきた成果」だと思います。また、この清掃は私たちだけで活動ができるわけではなく、各地の漁業協同組合さん、ボート組合さん、地元旅館組合さん、資金協力をしてくださる各財団、企業、市町村、港湾局、海上保安本部の方々、大変多くのご協力と、そして皆さんと同じベクトルでの清掃活動は、大変有意義であり、私たちダイバーにしかできない清掃活動は、これからも次世代へと引き継がれていってほしい活動です。

1981(昭和56)年～

海をつくる会は、1981(昭和56)年、第1回 山下公園海底清掃を実施するために、設立をいたしました。横浜市内で有数の観光名所ではありますが、当時の山下公園前の海には、大量のゴミが見え、どぶ臭とヘドロにまみれた海でした。あまりにも汚い海に唖然とし、有志により山下公園海底清掃大作戦と命名し、海底清掃を実施いたしました。第1回は200名のダイバーと5.6トンのゴミを回収いたしました。「大作戦」と呼ぶにふさわしい清掃です。今ではちょっと恥ずかしい名称ですが。

海底や湖底に沈んだゴミは、行政や清掃会社では容易に回収できません。しかしスクーバダイビングを用いることにより容易ではありませんが、回収は可能です。

しかし、「単に清掃する」と言うことに対しては大きな壁がありました。港湾行政の壁です。まず第一歩は、山下公園の利用許可取得。この取得で公園に出入りできるようになりました。そして次は目の前の海です。港湾区域では港湾局への水面利用許可申請が必要です。海面に触れるだけでも許可が必要なのです。水面利用許可が取得できると、さらに私たちの清掃では潜らなければ清掃になりません。そこには、京浜港長(横浜海上保安本部)宛ての行事申請が必要となります。これら許可を全て取得し、初めて海底清掃が実施可能となります。当初この申請だけで半年以上を要し、それゆえ第1回山下公園海底清掃を開始してからの10年は、山下公園海底清掃のみの実施でした。「これしか実施しかなかった。」というのが本音でしょうか。

第1回目の参加時、ダイビングショップのオーナーから目薬と正露丸をいただきました。潜る前に正露丸をのみ、浮上してから目薬を指すよう指示されての清掃です。ゴミはヘドロに埋まり、取れども、取れども手には空き缶が触り、泳ぐというのではなく、その場から離れられません。そんな状況化での清掃でした。

当時の清掃ダイバーは、ほとんど泳いではいないのではないのでしょうか。

現在、山下公園海底清掃では、港湾局、横浜海上保安本部からの支援をいただき、当初は半年も要した申請日数は不要となりました。また、ボートやダイバーの監視の為に監視船等の支援もいただき、山下公園周辺企業を含み、30団体もの協力により、山下公園海底清掃は実施いたしております。

私たちは、今私たちができる清掃を継続しつつ、30周年を迎えることができました。そして、今回環境大臣賞をいただくことができ、私たちにとって晴れ晴れしく、大変うれしい賞をいただいたことに感謝申し上げます。



実績

開催日		参加者数	清掃ゴミ量
1981(昭和56)年 7月18日	第1回	200名	5.6トン
1982(昭和57)年 7月17日	第2回	250名	5.7トン
1982(昭和57)年10月17日	横浜さわやか運動	150名	2.0トン
1983(昭和58)年 7月17日	第3回	150名	3.4トン
1984(昭和59)年 7月22日	第4回	150名	4.6トン
1985(昭和60)年 6月 2日	よこはまどんたく	50名	0.5トン
1985(昭和60)年 7月21日	第5回	100名	1.2トン
1986(昭和61)年 7月26日	第6回	100名	1.0トン
1987(昭和62)年 7月 5日	第7回	140名	2.0トン
1988(昭和63)年 6月12日	第8回	170名	3.0トン
1989(平成元)年 7月16日	第9回	232名	5.0トン
1990(平成02)年10月28日	第10回	255名	2.0トン
1991(平成03)年10月20日	第11回	310名	3.0トン
1992(平成04)年10月25日	第12回	337名	2.0トン
1993(平成05)年10月24日	第13回	450名	2.0トン
1994(平成06)年10月23日	第14回	350名	2.0トン
1995(平成07)年10月22日	第15回	337名	3.0トン
1996(平成08)年10月20日	第16回	314名	2.0トン
1997(平成09)年10月19日	第17回	250名	1.5トン
1998(平成10)年10月18日	第18回	336名	台風で中止
1999(平成11)年10月17日	第19回	236名	2.5トン
2000(平成12)年10月15日	第20回	255名	1.5トン
2001(平成13)年10月14日	第21回	380名	2.0トン
2002(平成14)年10月20日	第22回	268名	1.5トン
2003(平成15)年10月19日	第23回	293名	1.0トン
2004(平成16)年10月16日	第24回	218名	1.0トン
2005(平成17)年10月16日	第25回	196名	1.0トン
2006(平成18)年10月15日	第26回	137名	1.5トン
2007(平成19)年10月21日	第27回	380名	1.5トン
2008(平成20)年 8月24日	2008年横浜国際トライアスロン大会プレイベント	16名	0.3トン
2008(平成20)年10月19日	第28回	180名	1.5トン
2009(平成21)年 7月19日	2009年横浜国際トライアスロン大会プレイベント	27名	0.2トン
2009(平成21)年10月18日	第29回	231名	1.6トン
2010(平成22)年10月17日	第30回	182名	1.5トン
	計	7,630名	70.1トン

活動1990(平成2年～)年代

1990年代になると、横浜市内唯一の自然海岸である「野島」と触れ合うことになり、この自然海岸を守ろう。という活動が始まります。だれも管理者の居ない海岸は、常に漂着ゴミがあり、そのゴミを跨ぐように、潮干狩り家族がいそしんでいます。しかしゴミには、注射器が混じり、危険極まりありません。そこでこの浜を守る為には ①海岸清掃を行う。②海、陸の生きものを調べ、発信し、豊かな野島を伝える。この①②により、多くの横浜市民に野島の存在を伝えようと考えました。

毎月定点観察を行い、陸上、水中の生物を1年を通し、観察しつづけ、市民への野島情報発信として発刊作業を開始いたしました。

1995年 『横浜・野島の海と生きものたち』八月
書簡より

2000年 『野島の海 自然観察ガイドブック』
自費出版

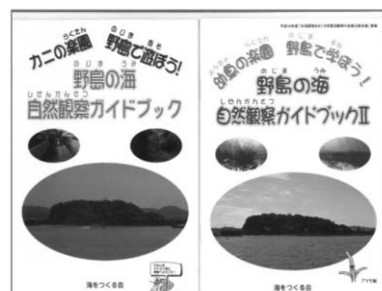
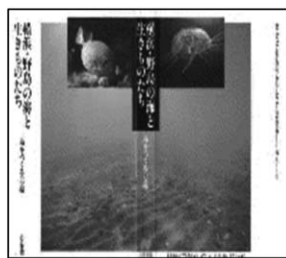
2003年 神奈川新聞 よこはま瓦版にて、ハマの海づくりコラムを1年継続

2004年 『野島の海 自然観察ガイドブック2』
自費出版

2004年 『ハマの海づくり』(神奈川新聞切り抜き纏め)自費出版

2006年 『ハマの海づくり』成山堂より

以上を発刊、発行しました。これにより多くの横浜市民に『野島』を紹介することができ、毎月の海岸清掃は『オールクリーン野島ビーチ実行委員会』となり、ガールスカウトや市民団体との協働による清掃が年4回開催され、この開催には毎回200名近い参加者があります。そして私たち海をつくる会は、野島定点観察を現在も毎月継続し午後には清掃を行っております。しかし毎回の清掃で注射器が発見され、危険な浜としてはなんら変わっておりません。



漂着ゴミは、清掃さえすれば、その日だけ浜は綺麗になります。しかし見えないゴミが浜にはあります。それがレジンペレットです。1㎡で3000粒も砂に混ざっており、鳥がエサと間違え誤飲し、腸につまり、死亡しているケースが見受けられます。このレジンペレット清掃は、1㎡の枠(ロープ)を使用し、その枠内にどれだけのレジンペレットがあるかを調査しながら、回収を続けております。



2011年3月6日 4,101個を回収しました。



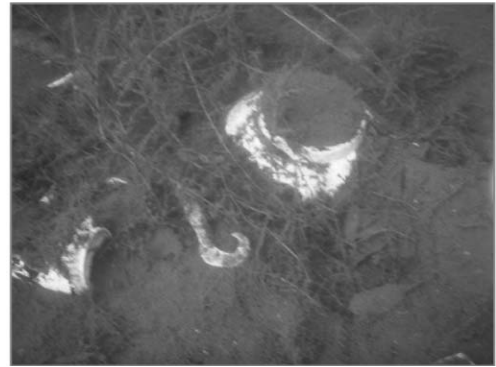
これがレジンペレットです

1cm

(プラスチック工業連盟HPより)

活動2000(平成12年～)年代

2000年代は、清掃活動躍進の年代と言えるでしょう。芦ノ湖湖底清掃の開始です。某湘南のダイビングショップから芦ノ湖湖底清掃への参加連絡が入り、早速ジョイント。初めての湖での清掃です。冷たい水を感じながら、湖底に静かに沈んでいく感覚は、海には無い感覚でした。沈むというより「引きこまれる」感覚が強いのではないのでしょうか。しかし湖底には、大量のゴミが待っておりました。第9回目には、3トントラック2台分のゴミを回収しました。芦ノ湖は、年間2000万人が訪れる神奈川県下有数の観光地です。しかし、観光客とゴミの量が比例的に増大している事実があります。第10回の箱根芦ノ湖美術館前は、第9回目と同年での開催ですが、第9回目の清掃終了直後に、湖底一面に陶器が散乱している箇所を見つけましたが、スクーバで使用しているエアータンク(空気ボンベ)の残量が少ない為、後日に再度清掃を行うことを決め、2か月後の11月に第10回目を開催いたしました。水温5℃の中、1時間の清掃で、ガラス類120個、ガラス破片100個、陶器308個等、計400kgを回収しました。回収後判明しましたが、30年前に閉店したラーメン屋さんで使用されていた食器類でした。



水深6mの湖底に沈む茶碗

翌年(2001年)から海をつくる会主催となり、今年で12回を数えます。

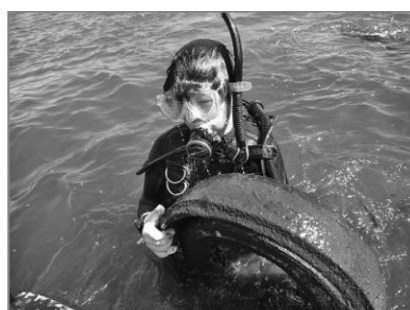
芦ノ湖湖底清掃実績

第1回	2001(平成13)年 7月 7日	湖尻 大場フィッシングセンター前	40名	1.5トン
第2回	2001(平成13)年12月19日	湖尻 大場フィッシングセンター前	68名	0.5トン
第3回	2002(平成14)年 9月29日	箱根観光船棧橋横(箱根湾)	34名	1.5トン
第4回	2003(平成15)年 9月21日	箱根芦ノ湖美術館前	50名	1.5トン
第5回	2004(平成16)年 9月11日	湖尻 大場フィッシングセンター前	56名	3.0トン
第6回	2005(平成17)年 9月18日	箱根観光船棧橋横(箱根湾)	78名	3.0トン
第7回	2006(平成18)年 9月17日	元箱根湾・園地	52名	3.0トン
第8回	2007(平成19)年 9月16日	湖尻 大場フィッシングセンター前	64名	3.0トン
第9回	2008(平成20)年 9月14日	箱根芦ノ湖美術館前	52名	6.0トン
第10回	2008(平成20)年11月24日	箱根芦ノ湖美術館前(陶器のみ回収)	27名	0.4トン
第11回	2009(平成21)年 9月12日	湖尻 大場フィッシングセンター前	39名	4.0トン
第12回	2010(平成22)年 9月20日	箱根町湾	38名	3.0トン
		計	598名	30.4トン

芦ノ湖湖底清掃の実績が、芦ノ湖漁協より神奈川県や各漁協に周知され、支援する財団、企業があり2007年11月に第1回 西湖湖底清掃を依頼され、それ以後、山中湖、河口湖、と徐々に活動の場所を広げております。

【山下公園、芦ノ湖以外の湖底、海底清掃実績】

2007年 11月14日	第1回 西湖
2007年 11月23日	第1回 河口湖
2007年 12月02日	第1回 山中湖
2008年 06月17日	東京都江東区若洲公園（海底清掃）
2008年 07月06日	第1回 榛名湖
2008年 07月13日	第2回 山中湖
2008年 08月08日	岩手県釜石市根浜港（海底清掃）
2008年 08月21日	第2回 西湖
2008年 09月06日	第3回 山中湖
2008年 09月07日	第2回 河口湖
2008年 09月21日	第3回 河口湖
2008年 11月16日	第2回 榛名湖
2009年 05月21日	第3回 西湖
2009年 07月05日	第3回 榛名湖
2009年 07月12日	第4回 河口湖
2009年 08月02日	第4回 山中湖
2009年 08月07日	岩手県釜石市平田港（海底清掃）
2009年 08月21日	第4回 西湖
2009年 09月05日	第1回 木崎湖
2009年 09月06日	第1回 野尻湖
2009年 10月04日	第5回 山中湖
2009年 11月22日	第1回 諏訪湖
2009年 11月29日	第1回 熱海海釣り施設（海底清掃）
2010年 05月29日	第1回 富士山樹海清掃
2010年 05月30日	第5回 河口湖
2010年 05月30日	第5回 西湖
2010年 06月19日	第2回 諏訪湖
2010年 06月20日	第3回 諏訪湖
2010年 07月04日	第6回 山中湖
2010年 08月06日	岩手県釜石市佐須漁港（海底清掃）
2010年 08月28日	第7回 山中湖
2010年 08月29日	第6回 河口湖
2010年 09月09日	第6回 西湖
2010年 10月02日	第1回 猪苗代湖
2010年 10月03日	第1回 曾原湖
2010年 10月14日	第7回 西湖
2010年 11月13日	第1回 焼津港（海底清掃）
2010年 11月14日	第1回 清水港（海底清掃）
2010年 12月11日	第2回 熱海海釣り施設（海底清掃）
2011年 02月12日	第1回 神戸垂水港（海底清掃）



ゴミデータ収集

私たちの活動はただ単に海底や湖底を清掃するだけでなく、回収したゴミデータを記録しております。

用紙は、(一般社団法人)Jean(クリーンアップ全国事務局)発行のゴミ調査・データカードを使用し

ております。記録したゴミデータを、Jeanに送付し、Jeanは全国の清掃データを纏め、International Coastal Cleanup(ICC) (本部: Los Angeles, USA) に送付を行い、全世界的な規模での清掃データを纏めております。



ジャン ゴミ調査・データカード International Coastal Cleanup (ICC) Data Card		A面
※以下が調査対象です。各ゴミの数を数えて、合計数を数字で記入してください。記入例: タバコの吸殻・フィルター 直正 158		
▼破片(3分の2未満のもの)		
*硬質プラスチック破片		*発泡スチロール破片: 大(1cm以上)
*プラスチックシートや袋の破片		*ガラスや陶器の破片
*発泡スチロール破片: 小(1cm未満)		*紙片
		*金属破片
▼陸上の活動で主に発生する品目		
タバコ		漂白剤・洗剤類ボトル
タバコの吸殻・フィルター		*スプレー缶・カセットボンベ
タバコのパッケージ・包装		*生活雑貨
葉巻などの吸い口		おもちゃ
使い捨てライター		風船
飲料用プラスチック		*花火
飲料ガラスびん		衣服類
飲料缶		くつ・サンダル
ふた・キャップ		家電製品・家具
ブルダブ		電池(バッテリーも含む)
6パックホルダー		*自転車・バイク
食器(わっぱも含む)		タイヤ
ストロー・マドラー		自動車・部品(タイヤ・バッテリー以外)
食品の包装・容器		潤滑油缶・ボトル
プラスチック袋(農業用以外)		梱包用木箱
紙袋(農業用以外)		物流用パレット
農業・肥料袋		荷造り用ストラップバンド
シート類(レジャー用など)		ドラム缶
*薪木ボット		くぎ・針金
薬さや(薬の弾丸の殻)		建築資材(くぎ・針金以外)
*レジストパレット		コンドーム
注射器		タンポンのアプリケーター
*注射器以外の医療ゴミ		紙おむつ
▼海・河川・湖沼の活動で主に発生する品目(水産・釣り関係など)		
釣り糸		*魚箱(トロ箱)
ロープ・ひも		釣りえき袋・容器
漁網		電球・蛍光灯(家庭用も含む)
発泡スチロール製フロート		ルアー・蛍光棒(釣り針)
ウキ・フロート・ブイ		*カキ養殖用バイブ
かご・漁具		*廃油ボール
▼次の項目に当てはまるものを記入してください。(書ききれない場合は裏面に)		
A. 上記以外で、地域で特に問題と思われるもの(→次のとおり記入: ①品目、②個数)		
B. ゴミによる動物への被害* 原因不明は対象外(→①動物名、②動物の生死、③原因のゴミ、④状態)		
C. 上記中、海外のもの(→①国名、②品目、③個数)		

©2010 一般社団法人JEAN(クリーンアップ全国事務局)2010年4月改訂



【今年（2011年）度の清掃活動予定】

4月16日（土）	横浜市金沢区野島 野島海浜清掃
4月24日（日）	横浜国際トライアスロン大会プレイベント 山下公園海底清掃
5月14日（土）	横浜市金沢区野島 野島海浜清掃
5月21日（土）	静岡県 焼津港 海底清掃
5月22日（日）	静岡県 大井川港 海底清掃
6月11日（土）	長野県 諏訪湖 湖底清掃
6月12日（日）	長野県 白樺湖 湖底清掃
6月18日（土）	横浜市金沢区野島 野島海浜清掃
7月09日（土）	富士山 樹海清掃
7月10日（日）	山梨県 河口湖 湖底清掃
7月16日（土）	横浜市金沢区野島 野島海浜清掃
7月23日（土）	福島県 猪苗代湖 湖底清掃
7月24日（日）	福島県 桧原湖 湖底清掃
8月06日（土）	岩手県釜石市佐須漁港 海底清掃
8月13日（土）	横浜市金沢区野島 野島海浜清掃
8月27日（土）	千葉県 波崎港 海底清掃
8月28日（日）	千葉県 木更津港 海底清掃
9月10日（土）	横浜市金沢区野島 野島海浜清掃
9月18日（日）	第13回 神奈川県箱根町 芦ノ湖 湖底清掃
9月29日（木）	山梨県 西湖 湖底清掃
10月08日（土）	横浜市金沢区野島 野島海浜清掃
10月16日（日）	第30回 山下公園海底清掃
10月22日（土）	群馬県 榛名湖 湖底清掃
10月23日（日）	群馬県 湯ノ湖 湖底清掃
11月05日（土）	山梨県 山中湖 湖底清掃
11月12日（土）	横浜市金沢区野島 野島海浜清掃
12月10日（土）	横浜市金沢区野島 野島海浜清掃

ゴミの分別作業とゴミデータは清掃活動より細かく、大変な作業です。ただこの作業を行うことで、どんな場所でどんなゴミがあるのかが今までのデータとして蓄積され、ゴミと周辺環境(住居、旅館街等)によりゴミに変化があることを知りました。このゴミと周辺環境の相互性を知ることで、ゴミの投棄防止に関する啓発活動がよりしやすくなっております。

最後に

私たちの活動は、第1回山下公園海底清掃においては、単独での活動でした。しかしこの30年間に於いて、多くの支援をいただきました。横浜市港湾局、横浜海上保安本部、(社)関東小型船安全協会、各地域の漁業協同組合、ボート組合、旅館組合、市町村、企業そして(財)日本釣振興会・・・等誠にありがとうございます。

今年も怪我無く、できるだけ多くの『目に見えないゴミ』を回収したいと思っております。

執筆者 坂本 昭夫